上田八木短資

ウィークリーシグナル

2026年11月6日

<来週の資金需給予想とイベント予定>

（単位：億円）

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
11/9 (月)	＋ 300	＋ 7,500	＋ 7,800	国庫短期証券発行償還（3M）	社債等買入 -100 国債補完供給 +1000		
11/10 (火)	＋ 500	＋ 8,000	＋ 8,500	国庫短期証券発行償還（6M）			日：金融政策決定会合における主な意見（10月29・30日分） ：貿易収支（9月）
11/11 (水)	＋ 200	▲ 12,000	▲ 11,800	国債発行（30年） 源泉所得税揚げ	共通担保（全） ▲ 8,000		米：CPI（10月）
11/12 (木)	＋ 500	▲ 4,000	▲ 3,500				日：日銀の浅田審議委員が長崎県金融経済懇談会で講演
11/13 (金)	トン	▲ 20,000	▲ 20,000	国債発行（5年）			米：PPI（10月） 欧：ユーロ圏GDP（3Q）

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、前営業日対比1兆7,200億円減少の416兆7,900億円から始まった。その後、税・保険揚げや普通交付税交付金の払い等の要因により増減し6日は412兆8,200億円（速報）で越週した。

無担保コールON物加重平均金利は週初、1.227%から始まり、その後も概ね横ばい圏で推移した。

ターム物は1W～3W物1.223%～1.370%のレンジ、1M～3M物1.285%～1.570%のレンジで出合いが見られた。

来週の予定は、国内では10日に金融政策決定会合における主な意見（10月29・30日分）の公表、12日に日銀の浅田審議委員が長崎県金融経済懇談会で講演、海外では11日に米CPI（10月）、13日にユーロ圏GDP(3Q)の公表などがある。

［無担保コールレート］

	予想レンジ（%）
O/N	1.220 ～ 1.228
1M	1.30 ～ 1.45
2M	1.50 ～ 1.60
3M	1.55 ～ 1.65
6M	1.60 ～ 1.75

［オープン市場］

	予想レンジ（%）
現先（on/1w）	1.2台前半
CP 3M（a-1+）	1.4~1.6台

<レポ>

足許GCは週を通して1.250%～1.255%の狭いレンジでの出合いとなった。買い入れオペや短国の発行の影響もほとんど見られず、水準に変化はなかった。

SC取引は2年484～488回債、5年180~187回債、10年361~372、379~383回債、20年194~197回債、30年87~91回債などに引合いが見られた。

<CP>

今週の入札発行総額は1兆1,820億円で、週間償還額の1兆3,185億円を下回った。発行残高は、先週末時点の24兆7,831億円から、11月5日時点で25兆5,433億円へと増加した。発行市場では、鉄鋼・建設・その他金融業をはじめとする幅広い業種で、大型の発行案件が見られた。入札案件の発行レートは、a-1格相当の1か月物で1.2%台後半から1.4%台前半、3ケ月物で1.4%台から1.6%台と、幅広い水準での取引が確認された。

来週の償還額は、約1兆4,875億円となっている。発行市場は、5・10日を中心とした資金調達ニーズから、相応の発行が見込まれる。発行レートは、日本銀行が利上げを継続する姿勢を示していることから、引き続き水準を探る展開となるだろう。

<TDB>

6日の3M（第1417回債）の入札は、最高落札利回り1.2481%（前回債1.2762%）、平均落札利回り1.2410%（前回債1.2706%）となった。

来週の入札は9日に6M、13日に3Mが予定されている。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。

上田八木短資株式会社　登録金融機関 近畿財務局長（登金）第 243号　加入協会 日本証券業協会